

[成果情報名] 水稻品種「みのりの郷」の目標収量及び収量構成要素

[要約] 「みのりの郷」の目標収量は 660kg/10a とする。目標収量を得るための収量構成要素は m^2 籾数 3 万 3 千～3 万 4 千粒、登熟歩合 82%以上、千粒重 24.2g 以上、穂数 350～370 本/ m^2 である。

[キーワード] みのりの郷、収量、収量構成要素

[担当] 三重県農業研究所・農産研究課

[分類] 研究

[背景・ねらい]

「みのりの郷」は、本県における栽培適応性の高い業務用多収品種として開発され、2019 年 2 月に品種登録出願が公表された。一方、2019 年度より、現地において契約栽培が始まっているが、栽培方法の確立には至っていない。そこで、2019～2021 年度における 3 か年の栽培試験データを解析し、収量及び収量構成要素の目標値を決定することで、安定生産及び栽培方法の確立に向けた参考とする。

[成果の内容・特徴]

1. 目標収量は 660kg/10a とする。 m^2 籾数が 3 万 3 千～3 万 4 千粒で収量は 660kg/10a となり、これ以上 m^2 籾数が増加しても、登熟歩合や千粒重の低下により増収は期待できない（図 1、図 2、図 3）。
2. 目標収量の 660kg/10a を得るための収量構成要素は、 m^2 籾数 3 万 3 千～3 万 4 千粒、登熟歩合 82%以上、千粒重 24.2g 以上で、さらに、目標 m^2 籾数を得るためには穂数 350～370 本/ m^2 の確保が必要である（図 1、図 2、図 3、図 4、表 1）。
3. 収量と整粒歩合及び玄米蛋白質含有率との間には相関関係が認められない（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 2019～2021 年度の 3 か年の所内試験データ（松阪市、伊賀市）を解析に用いた。
2. 収量および収量構成要素は 1.85mm 篩上玄米について算出した。
3. 5 月中旬から下旬に稚苗を 15.2～18.2 株/ m^2 の栽植密度で移植する条件に適用する。
4. 本目標値を活用し、今後、施肥等の栽培方法の確立を目指す。

[具体的データ]

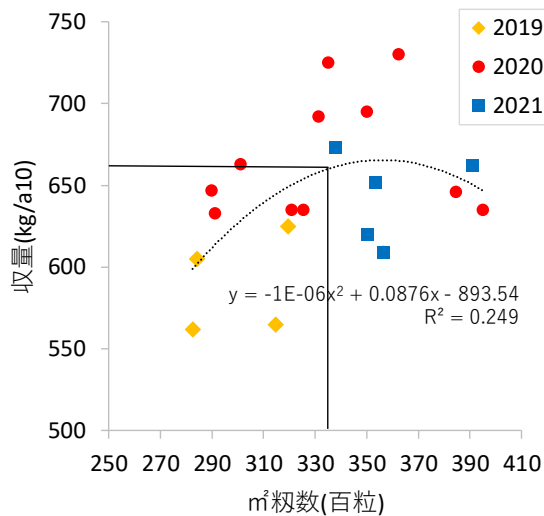


図 1 m² 粒数と収量との関係

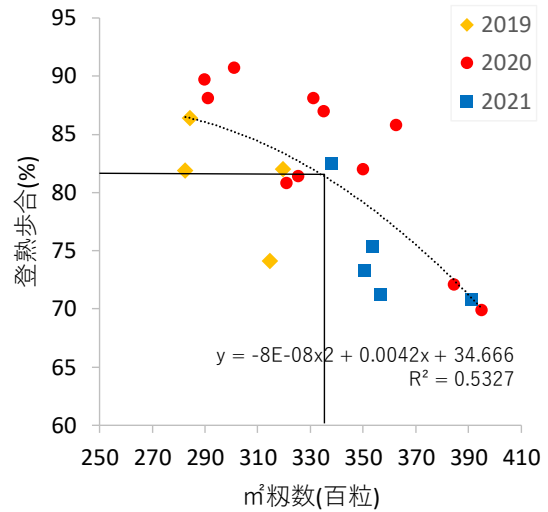


図 2 m² 粒数と登熟歩合との関係

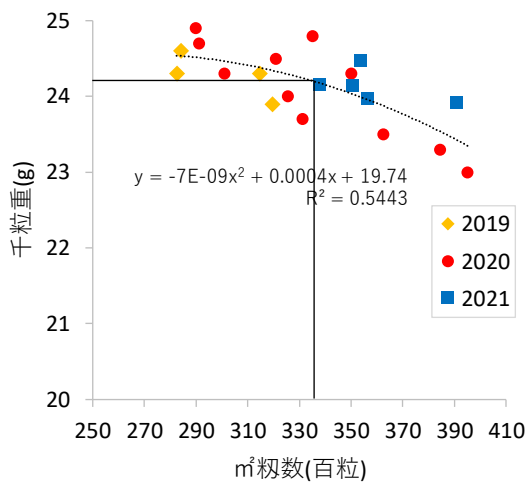


図 3 m² 粒数と千粒重との関係

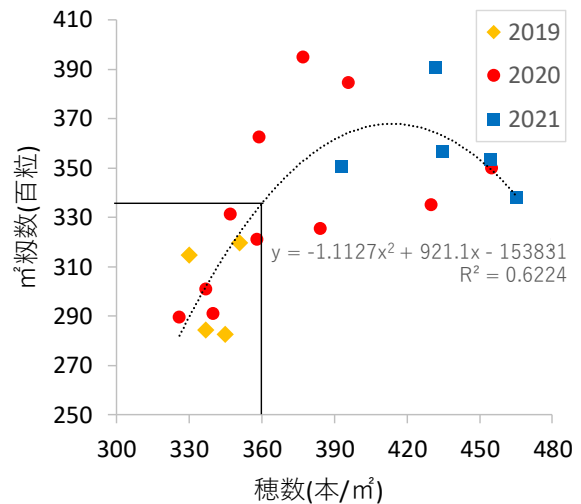


図 4 穂数と m² 粒数との関係

表 1 目標収量 (660kg/10a) を得るための収量構成要素

m²粒数	登熟歩合	千粒重	穂数
330~340百粒	82%以上	24.2g以上	350~370本/m²

(執筆者氏名) 佐藤 恒亮

[その他]

研究課題名：「みのりの郷」の高品質安定多収技術の確立

予算区分：共同研究（ミエライス）

研究期間：2019～2021 年度

研究担当者：佐藤恒亮、山吉咲綺、本多雄登、松本憲悟、坂口尚子、田畑茂樹、山川智大、中山幸則、大橋里美、太田雄也、